

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(だい 1 3 期 だい 2 年 だい 3 かい だい 2 日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2021(令和3)年12月5日(日) 午後2時00分～4時30分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 22人

アディテア ワルマン、カイ イーモンタン、金 海花、児玉
ノンティシャー、許 成龍、スカーフ サラ デイナ、スチエタ
スリニヴァサン、張 亮、チョ チョ カイン、ドウマヤス アリヤン、
バテネフ アルチョム、ペレーラ ラヒル サンケータ、ポール ウツザル
クマル、ボソ ミゲル アンヘル、ムハマド アイマン アリフ、ユデク
マルチン、尹 智夏、李 歆歆、劉 愛玲、レイバーマン ケビン、和田
恵麗奈、ンディアエ マリ カタリン

(2) 事務局

佐藤 課長、菅原 担当課長、佐藤 課長補佐、森下 担当係長、五十嵐
職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 4人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2021年度第3回第2日を開催する。今日は、前田さん、グエンさん、シンさんが欠席だ。それでは、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局佐藤課長補佐が説明)

ペレーラ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、議事に入る。まずは2021年度年次報告書についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局五十嵐職員が資料2に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)では、続いて部会審議に移る。全体会の再開は16時10分からとする。」

【国際コミュニティ部会】

尹副部長「それでは、部会を始めたい。まずは、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明)

尹副部長「何か質問はあるか。(なし)では、提言案について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料3-1に基づき説明)

尹副部長「何か質問はあるか。」

スカーフ委員「2ページ目の『識字学級』とはどういう意味か。」

事務局高橋専門調査員「いわゆる『日本語クラス』のことだ。」

許委員「3ページ目のところで、川崎区と川崎区役所で外国人住民人口比率が違うが、これはどういう意味か。」

事務局高橋専門調査員「川崎区は、川崎区役所、大師支所、田島支所という3つのエリアに分けることができる。川崎区役所というのは、いわゆる川崎駅に近いエリアなので、駅前とくに人口比率が高いという意味だ。」

ステータ委員「データはそれぞれ最新のものに更新するという理解でよいか。」

事務局高橋専門調査員「基本的にはそのとおりだ。黒丸になっている部分は、12月末日現在のものに更新する予定だ。ただし、実態調査のデータは2019年度

のものが最新なので更新されない。」

チョ委員「多文化共生社会推進指針ができたのは、2015年が初めてか。」

事務局高橋専門調査員「最初にできたのは2005年だ。2008年に1回目の改定があり、2015年に2回目の改定があった。」

尹副部長「では、何か意見はあるか。」

張副委員長「3ページの一番上だが、おそらくデータもあると思うが外国人市民も地域活動に参加したい、貢献したいといったことを追加して欲しい。」

事務局高橋専門調査員「そのことについては、2行目で『また、私たち外国人市民は・・・』というかたちで表現したつもりだ。それと、代表者のみなさんが積極的に貢献したいという思いを持っていることはわかっているが、外国人の方が全員そのような思いを持っているわけではない。実態調査でも、『地域活動に参加したいと思わない』という人は24.0パーセントいる。」

張副部長「すべての外国人市民がそう思っていないということは理解した。ただ、代表者会議の中ではそうした思いが確認できたと思うので、うまく入れることはできないか。」

事務局高橋専門調査員「では、『解消できる問題も多くあると思いますし、ラウンジはその受け皿としても役立つと思います』のあとに、『私たちも積極的に参加、協力したいと思っています』のような文章をくわえるのはどうか。」

張副委員長「賛成だ。」

ンディアエ委員「2015年度のと看と変わったこととして、コロナのことにもふれたらどうか。」

事務局高橋専門調査員「コロナのことは新しいニーズということで、5ページ以降でふれている。ただし、みなさんの議論の中で出ていた『精神的な不安』や『孤立』のような面については、弱かったかもしれない。」

李委員「たしかに、少し弱く感じるので書き足してもらえるとよい。もう1つ、個人的な感想だが、提言は外国人支援と多文化共生の推進という2つを目的としているが、背景・理由はどちらかという情報不足などの外国人支援に偏っているように感じた。もう少し何か工夫できないか。」

事務局高橋専門調査員「今、この場で具体的な修正案は出せないが、意見はよくわかったので何とか工夫してみたい。」

和田委員「少し話が戻ってしまうが、コロナ禍での精神的な不安へのサポートは、とくに言葉の壁を感じる人にとってはとても大事だと思う。」

許委員「5 ページのところの日本人との交流、多文化共生の部分はほかと比べて
ボリュームが少ないので、もう少し肉づけして欲しい。」

事務局高橋専門調査員「私もやや少ないと感じていたので修正したい。」

アディティア委員「外国人同士をつなげることで解決できる問題もあると思うが。」

事務局高橋専門調査員「3 ページでふれている。」

アディティア委員「文章が長いので、もっとポイントを絞ってわかりやすくできない
か。」

尹副部長「言うのは簡単だが、実際に修正するとなると難しい。話の流れもある
し、今の時点でも基本的にはよくできていると感じる。」

張副委員長「5 ページの日本人と交流できる場所のところ、日本人にとっての
メリットも追加できるとよい。」

チョ委員「また修正したものを確認できるので、書きぶりや修正方法については、
事務局に任せればよい。」

尹副部長「それでは、あとは事務局に任せるということで提言案についての審議は
ここまでとしたい。」

ンディアエ委員「提言が完成したら、Facebook に投稿するか。」

事務局高橋専門調査員「まず、提言は年次報告書に載せて市長に報告する。そのあと、
年次報告書は市のホームページにアップする。年次報告書をアップしたことは
SNS でも投稿する。ほかには、提言はニューズレターにも載せる。」

尹副部長「それでは、これで国際コミュニティ部会を終わりにする。」

【安心生活部会】

児玉部会長「それでは、安心生活部会を始める。まずは、事務局から説明をお願いす
る。」

(事務局五十嵐職員が資料4に基づき説明)

児玉部会長「では、まずは多言語ツールの作成について審議する。事務局から説明を
お願いする。」

(事務局五十嵐職員が資料4-1に基づき説明)

児玉部会長「何か質問や意見はあるか。」

ドウマヤス委員「1つのアイデアだが、背景・理由のところにSDGsの取組に関す
ることを入れられないか。」

事務局五十嵐職員「入れられるかどうか検討する。」

レイバーマン委員「細かいことだが、1 ページ目の下のグラフで去年の数字が下がっている。コロナの影響だと思うが、そのことを説明した方がよいかもしい。」

事務局五十嵐職員「その点については、『増加しています』ではなく、『増加傾向にあります』という表現にするかたちで工夫している。」

レイバーマン委員「理解した。」

劉委員「グラフが少し見にくいので、何か工夫できるか。」

事務局五十嵐職員「工夫して修正したい。」

レイバーマン委員「文章に関してだが、少し堅く感じるので、たとえば『子どもたちの未来』のような表現を入れられないか。」

劉委員「外国人のためだけではなく、窓口の職員にとっても、あるいは外国人と日本人を橋渡しするのも役立つということをもう少し書いてもらえるとよい。」

児玉部会長「私も賛成だ。ほかに何かあるか。(なし)では、次にオリエンテーションについて審議する。事務局から説明をお願いする。」

(事務局五十嵐職員が資料4-2に基づき説明)

児玉部会長「何か質問や意見はあるか。」

劉委員「3 ページにある募集型や出前型について、説明してもらえるか。」

事務局五十嵐職員「募集型というのは、開催日時や場所を決めて参加者を募る方法だ。出前型というのは、依頼に応じて実施する方法だ。」

レイバーマン委員「提言の中で、何か広報の方法についてふれなくてよいか。せっかく開催しても、人が来ないともったいない。」

事務局五十嵐職員「6月に実際に実施してみたが、広報の部分で課題があることは事務局も認識している。」

劉委員「需要があれば、企業や日本語学校など出前型でやっていくのも1つの選択肢かと思う。」

ボソ委員「学校と連携して、行事の予定と合わせるのもよいかもしい。」

ペレーラ委員長「ただ実施してくださいというだけで、インパクトが薄いと実現に至らないと思う。」

レイバーマン委員「開催頻度について、『一度だけではなく』だと明確ではないので、もっと具体的に回数を示した方がよいのではないか。タイミングについても、何かのデータで調べることができれば参考になると思う。」

事務局五十嵐職員「回数や頻度、タイミングを具体的に書いてしまうと、縛りが強くなってしまいますので、あまり具体的にしない方がよい。」

劉委員「募集型だと、いくら市が情報を発信しても自分で情報をとりにいかない人には届かない。私たちがもっと積極的に広報に協力することも大事だと思うが、大学や日本語学校、企業などをおして広報したり、出前型で開催したりするとよいかもしれない。」

ボソ委員「とてもよい方法だと思うが、提言ではこういうやり方もあるというくらいしか書けないと思う。回数や頻度と同じで、やり方も具体的に限定しない方がよい。」

ポール委員「いろいろなアイデアや意見があるとは思いますが、提言に書くのは背景・理由なので、どうすれば参加者が増えるかというところまでは書かなくてよいと思う。」

ドウマヤス委員「他都市の事例がわかれば少し説明して欲しい。学べることがあるかもしれない。」

児玉部会長「それでは、事務局は今日出た意見を反映させて次回の資料を準備して欲しい。これで安心して生活部会を終わりにする。」

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、全体会を再開する。まずは、部会報告からだ。国際コミュニティ部会から願います。」

尹副部会長「今日は多文化共生ラウンジの設置について意見交換をした。背景・理由の最初の部分について、修正意見が出た。ほかには、コロナのことももう少し関連させて欲しいという意見や日本人にとっても交流の場になるといったことを強調して欲しいといった意見が出た。次回の会議で修正意見が反映されているか、確認したい。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。（なし）それでは、次に安心して生活部会の報告をお願いします。」

児玉部会長「今日は、多言語ツールの作成とオリエンテーションの開催について、提言案の確認をした。多言語ツールの提言案については、グラフを見やすくして欲しいといった意見が出た。オリエンテーションについては、将来的なことを書いたらどうか、開催頻度を書いたらどうか、開催のタイミングについて書いたらどうかといった意見が出た。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

張副委員長「多言語ツールの作成について、ホワイトボードにSDGsとあるが、これは背景・理由でふれるということか。」

児玉部会長「まだ検討中だ。」

ペレーラ委員長「ほかにあるか。（なし）それでは、今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いする。」

【事務連絡】

- ・教科書への写真の提供について

ペレーラ委員長「それでは、これで今日の日程は終了だ。次回は1月16日、日曜日、国際交流センターで開催する。これで2021年度第3回第2日の会議を終わりにする。」